

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

習志野市教育委員会

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

本市の実施状況	4月18日に実施した学校数	当日実施した児童生徒数 ※			
		国語A	国語B	算数A 数学A	算数B 数学B
小学校	16校	1,420名	1,419名	1,420名	1,420名
中学校	7校	1,329名	1,327名	1,327名	1,327名

※ 後日実施した児童生徒の結果は集計値に含まれません。

当日未実施者数…小学校/国語A23名, 国語B24名, 算数A23名, 算数B23名

中学校/国語A64名, 国語B66名, 数学A66名, 数学B66名

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

- ・ 主として「知識」に関する問題 (A)
(身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など)
- ・ 主として「活用」に関する問題 (B)
(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など)

(2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒に対する調査
(学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関すること)
- ・ 学校に対する調査
(学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること)

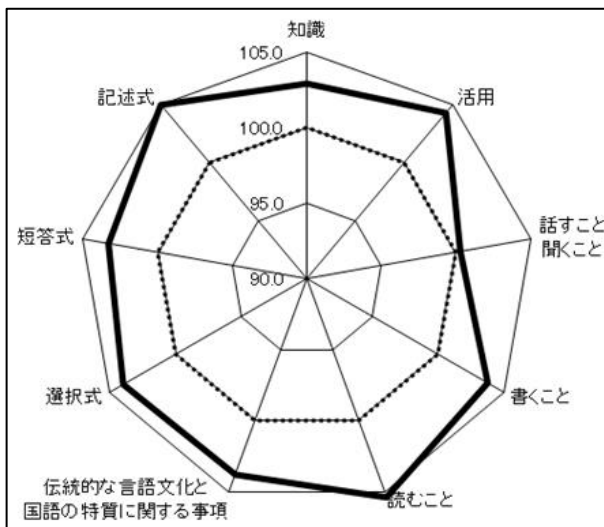
5 教科に関する調査の結果

(1) 小学校・国語

※習志野市・全国ともに、公立学校の平均正答率です。文部科学省の方針に基づき、習志野市平均正答率は小数点以下を四捨五入、全国平均正答率は小数第1位までの結果を示しています。

	習志野市	全国
国語A	77	74.8
国語B	60	57.5

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値(太線)を示しています。



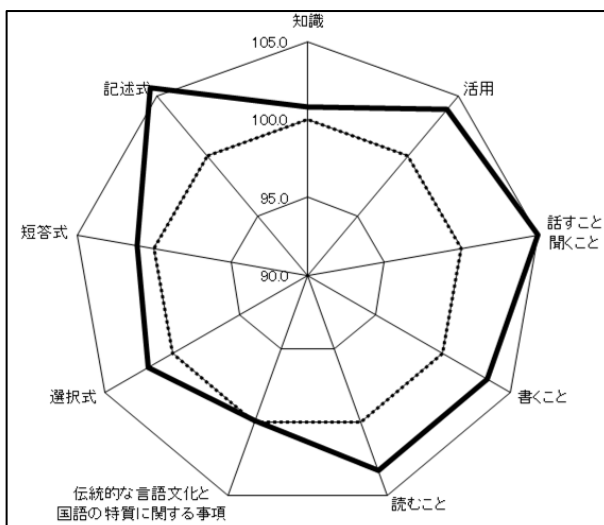
成果「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」問題についての正答率が全国値を大きく上回りました。「知識」(102.9)よりも「活用」(104.3)の上回りが大きい傾向は昨年度と同様です。

課題「話すこと・聞くこと」は、H27(110.0)、H28(102.2)、H29(100.3)と全国値との差が年々小さくなっています。互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理することや、司会者、提案者、参加者の役割を理解して進行に沿って話し合ったりすること、また、場に応じた適切な言葉遣いで話すことにやや課題があります。

(2) 中学校・国語

	習志野市	全国
国語A	78	77.4
国語B	75	72.2

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値(太線)を示しています。



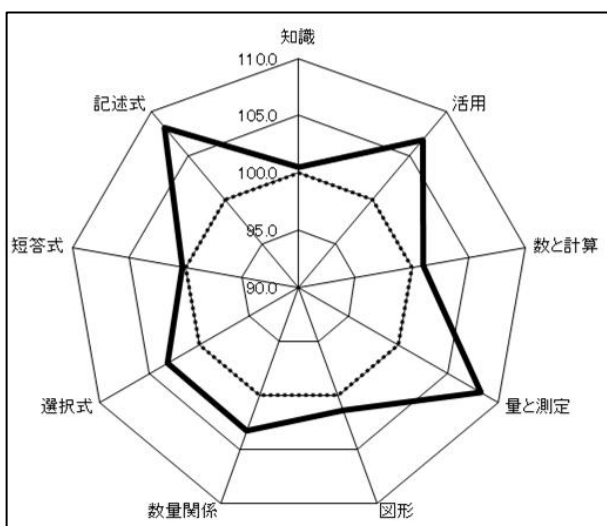
成果「記述式」は、H28(104.5)、H29(105.7)と全国値と比べて上回りが大きくなりました。「記述式」は「活用」に含まれるため、「活用」(103.9)は「知識」(100.8)よりも上回りが大きくなっています。「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」問題は短答式による解答ですが、正答率は全国値を大きく上回りました。

課題「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、この5年間、H25(101.7)、H26(104.6)、H27(103.7)、H28(103.8)、H29(99.9)であり、今回初めて全国値を下回りました。文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすることや行書と楷書の特徴とその違いを理解することに課題があります。

(3) 小学校・算数

	習志野市	全国
算数A	79	78.6
算数B	49	45.9

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値(太線)を示しています。



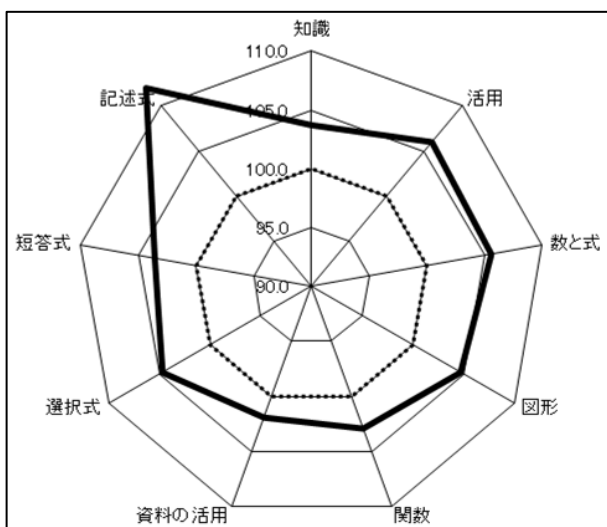
成果「活用」(106.8), 「量と測定」(108.3), 「記述式」(108.2)が全国値を大きく上回りました。特に、「活用」並びに「量と測定」は全国値と比べた上回りが昨年度よりも大きくなりました。

課題「知識」(100.5), 「数と計算」(101.0), 「短答式」(100.3)は、いずれも全国値と比べた上回りが昨年度よりも2ポイント以上小さくなり、全国値とほぼ同程度になりました。計算の意味と計算の仕方の理解について課題があります。「図形」は H27(106.7), H28(101.1), H29(101.4)で、昨年度よりはわずかに改善したものの、全国値とほぼ同程度であり、正多角形の性質の理解についてやや課題があります。

(4) 中学校・数学

	習志野市	全国
数学A	67	64.6
数学B	51	48.1

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値(太線)を示しています。



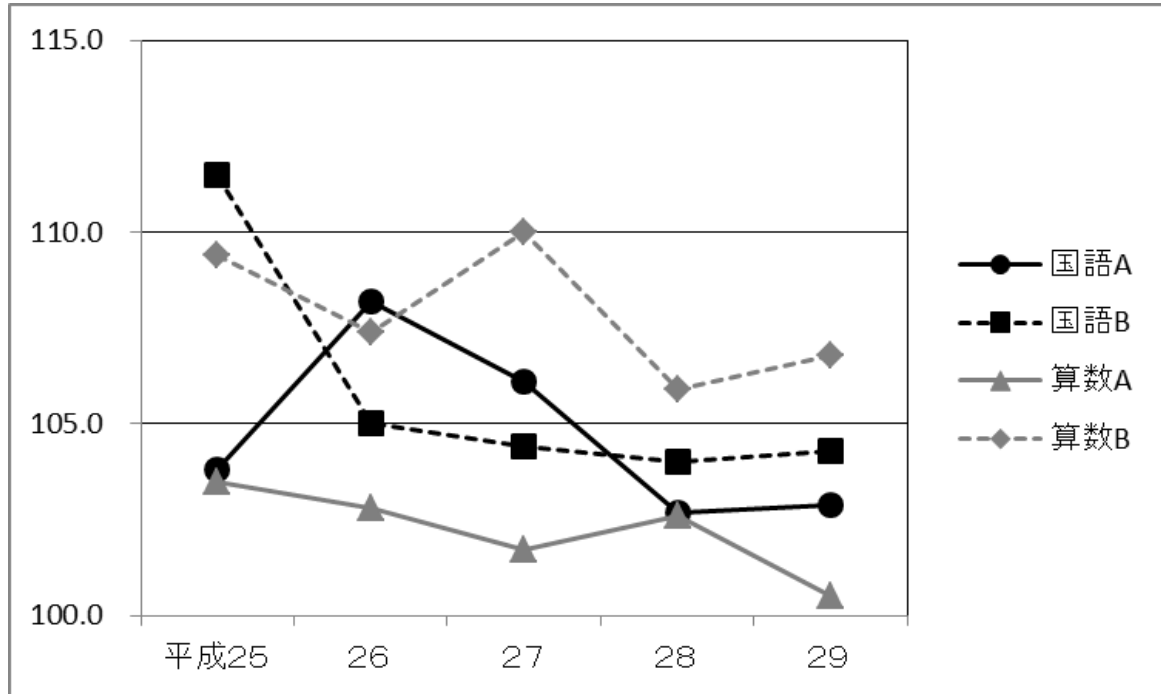
成果「記述式」は、H27(115.2), H28(107.3), H29(112.0)と全国値を大きく上回る傾向が見られます。今回、数学的に説明したり、筋道を立てて考え、証明したりする「記述式」の正答率はすべて全国値を上回り、無回答率は全国値よりも低くなっています。

課題「資料の活用」は、この5年間、H25(109.3), H26(106.4), H27(105.9), H28(98.8), H29(101.9)であり、今回やや改善傾向が見られましたが、上回りが小さいため全国値とほぼ同程度です。相対度数を求める問題についての無回答率が全国値よりも高く、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めるなど、その必要性和意味についての理解に課題があります。

6 5年間の経年変化

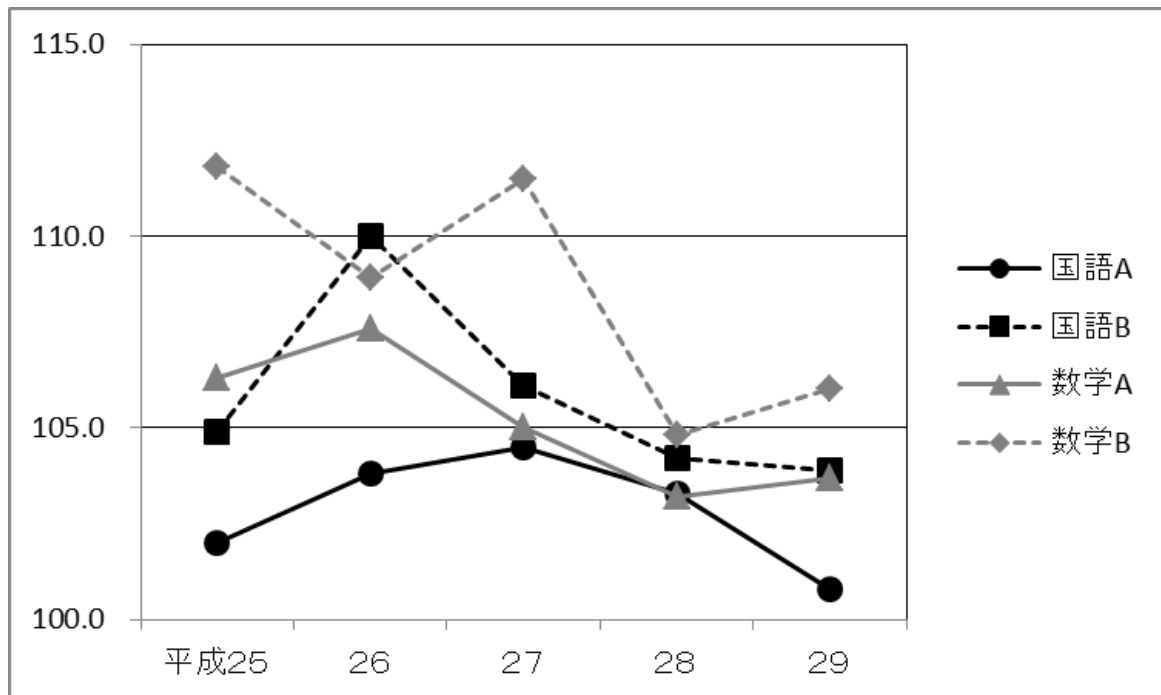
(1) 小学校

※折れ線グラフは、全国平均を100としたときの本市の相対値を調査内容別(国語A・B, 算数A・B)に示しています。



(2) 中学校

※折れ線グラフは、全国平均を100としたときの本市の相対値を調査内容別(国語A・B, 数学A・B)に示しています。



7 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 小学校

① 全国値に比べ該当する児童の割合が高い項目(5ポイント以上)

- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
[習志野市:54.1% 全国:48.7%]
- ・国語の勉強が好き。 [習志野市:67.9% 全国:60.5%]
- ・読書が好き。 [習志野市:80.7% 全国:74.3%]
- ・調査問題の解答時間は十分。(算数 B) [習志野市:58.9% 全国:52.5%]

② 全国値に比べ該当する児童の割合が低い項目(5ポイント以上)

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。 [習志野市:79.9% 全国:85.1%]
- ・今住んでいる地域の行事に参加している。 [習志野市:52.7% 全国:62.6%]
- ・算数の勉強が好き。 [習志野市:60.6% 全国:65.9%]
- ・算数の授業の内容はよく分かる。 [習志野市:75.6% 全国:80.6%]

(2) 中学校

① 全国値に比べ該当する生徒の割合が高い項目(5ポイント以上)

- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
[習志野市:56.5% 全国:50.6%]
- ・読書が好き。 [習志野市:75.5% 全国:69.9%]

② 全国値に比べ該当する生徒の割合が低い項目(5ポイント以上)

- ・授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かす。
[習志野市:65.3% 全国:70.9%]
- ・学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている。
[習志野市:35.4% 全国:40.5%]
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。 [習志野市:66.2% 全国:75.5%]
- ・今住んでいる地域の行事に参加している。 [習志野市:31.8% 全国:42.1%]
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
[習志野市:37.8% 全国:49.7%]
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 [習志野市:51.8% 全国:64.3%]
- ・1,2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。 [習志野市:63.3% 全国:71.3%]

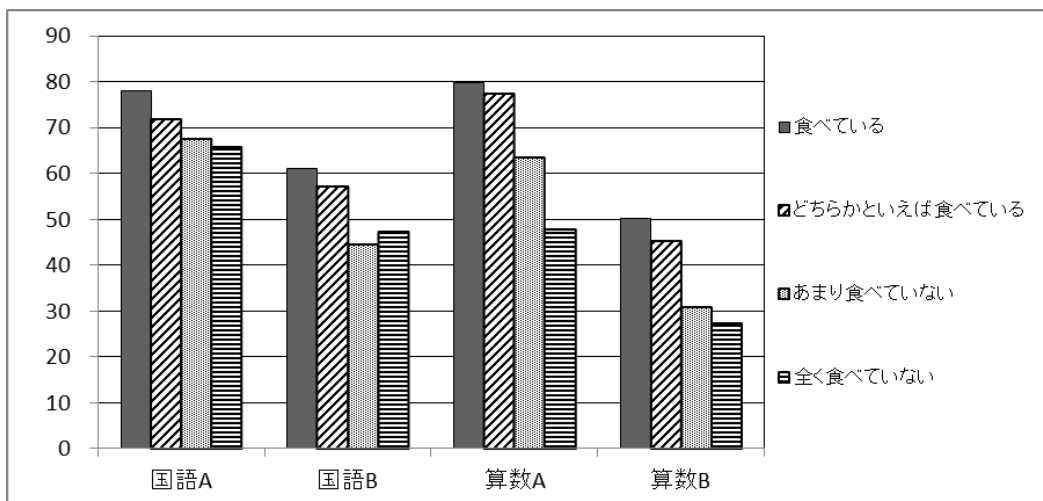
- ・1, 2年生のときに受けた授業で, 生徒の間で話し合う活動では, 話し合う内容を理解して, 相手の考えを最後まで聞き, 自分の考えをしっかりと伝えてきたと思う。
[習志野市:66.9% 全国:73.5%]
- ・1, 2年生のときに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。
[習志野市:50.2% 全国:57.9%]
- ・1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
[習志野市:58.1% 全国:66.1%]
- ・1, 2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり, 地域の人と関わったりする機会があったと思う。
[習志野市:37.7% 全国:53.7%]
- ・国語の勉強が好き。
[習志野市:55.0% 全国:60.5%]
- ・国語の授業の内容はよく分かる。
[習志野市:64.8% 全国:74.9%]
- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み, 自分の考えを話したり, 書いたりしている。
[習志野市:54.8% 全国:62.7%]
- ・国語の授業で意見などを発表するとき, うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
[習志野市:48.3% 全国:55.6%]
- ・数学の勉強は大切だと思う。
[習志野市:75.8% 全国:81.1%]
- ・数学の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思う。
[習志野市:64.6% 全国:72.4%]

8 児童生徒質問紙調査の回答結果と教科に関する調査の正答率との相関関係

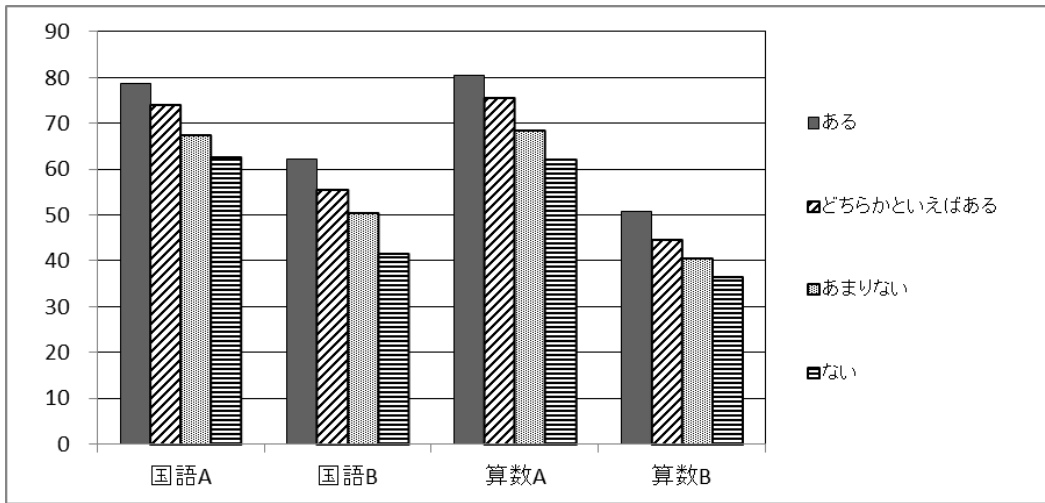
(1) 小学校

※質問事項に対する児童の回答(選択肢)と, 教科に関する調査の正答率との関係を棒グラフで示しています。ここでは, 肯定的な回答(選択肢)と正答率の高さに大きな相関関係が見られるものを載せています。

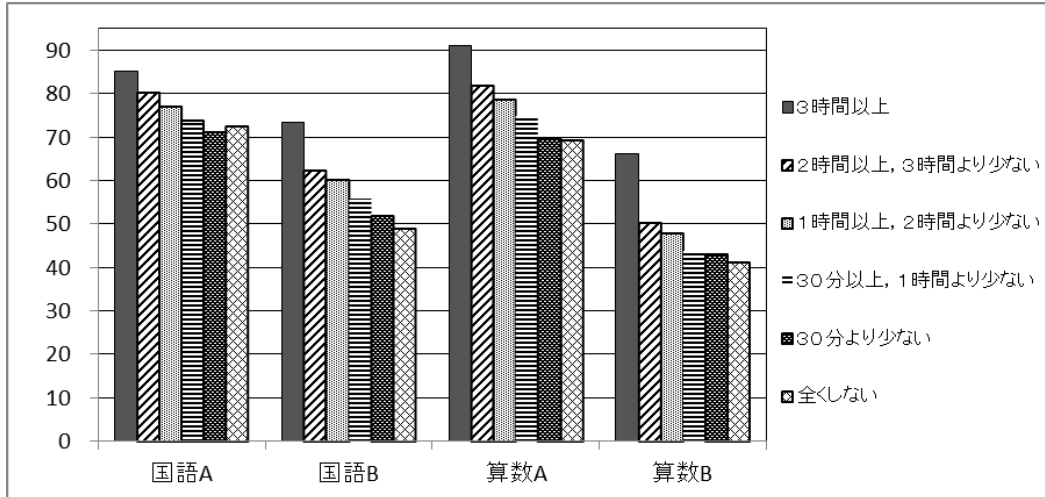
①朝食を毎日食べていますか。



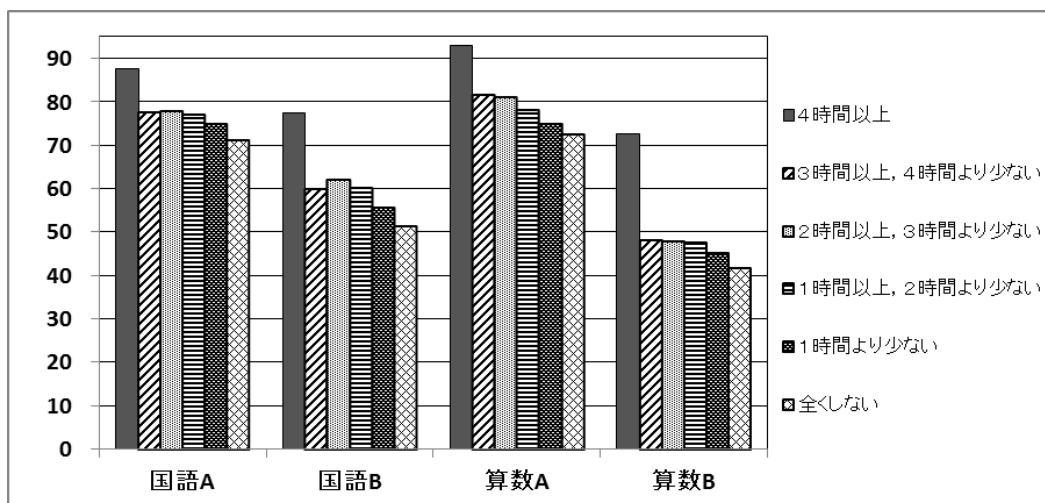
②ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



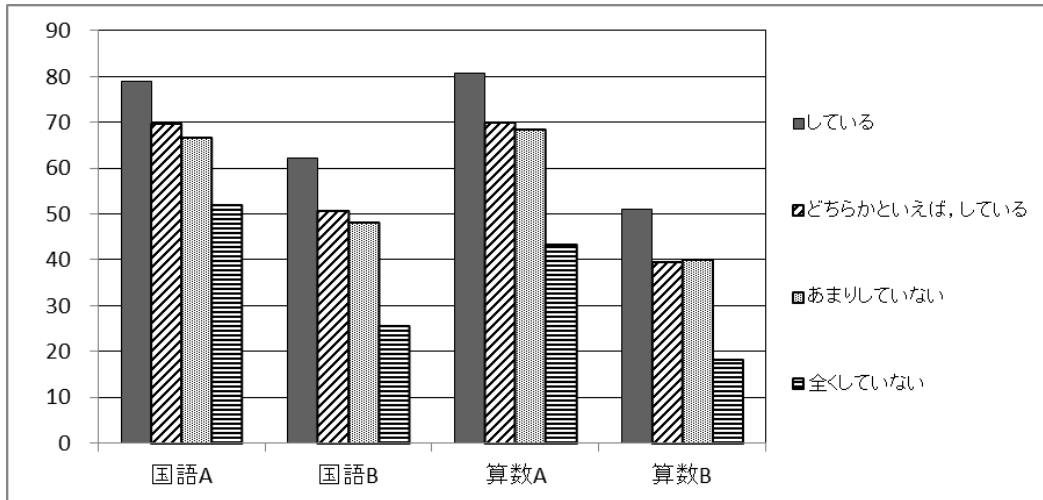
③学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



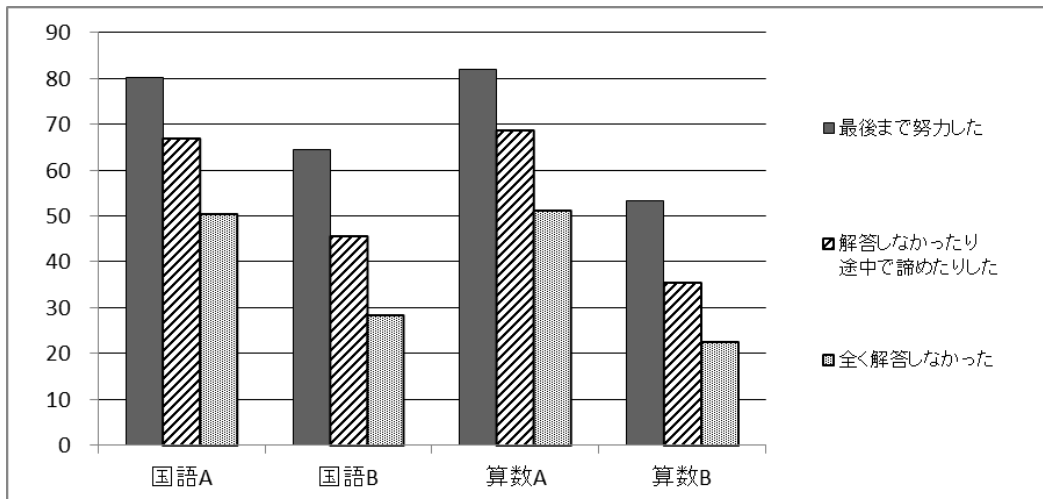
④土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



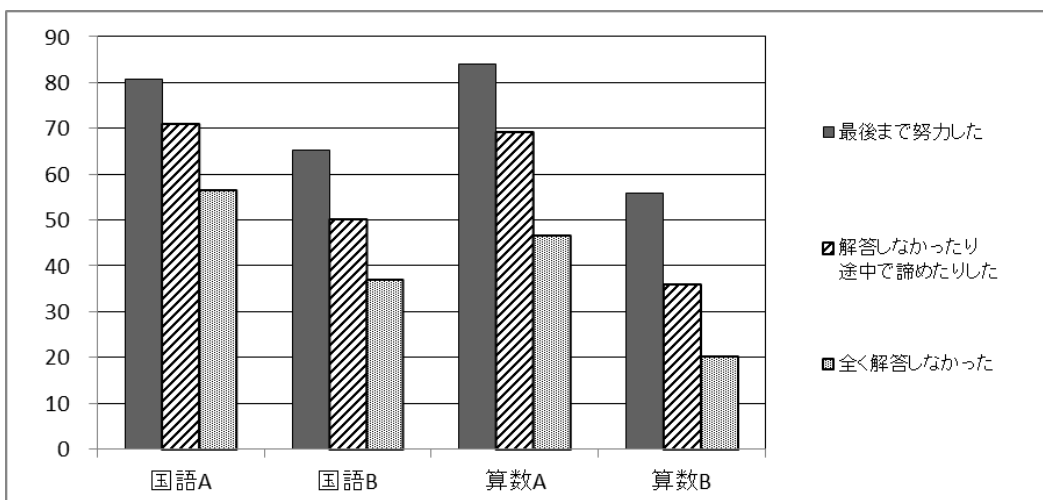
⑤家で、学校の宿題をしていますか。



⑥今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題に、どのように解答しましたか。

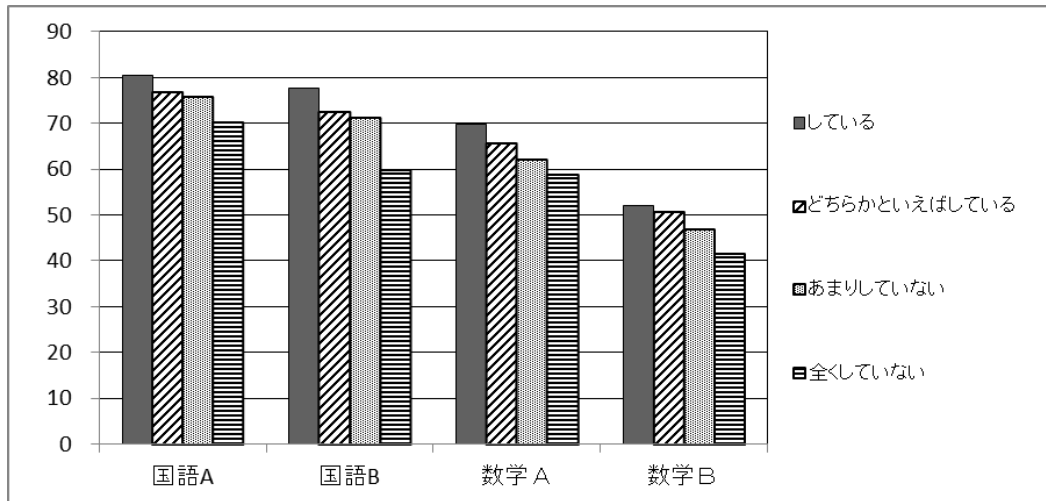


⑦今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題に、どのように解答しましたか。

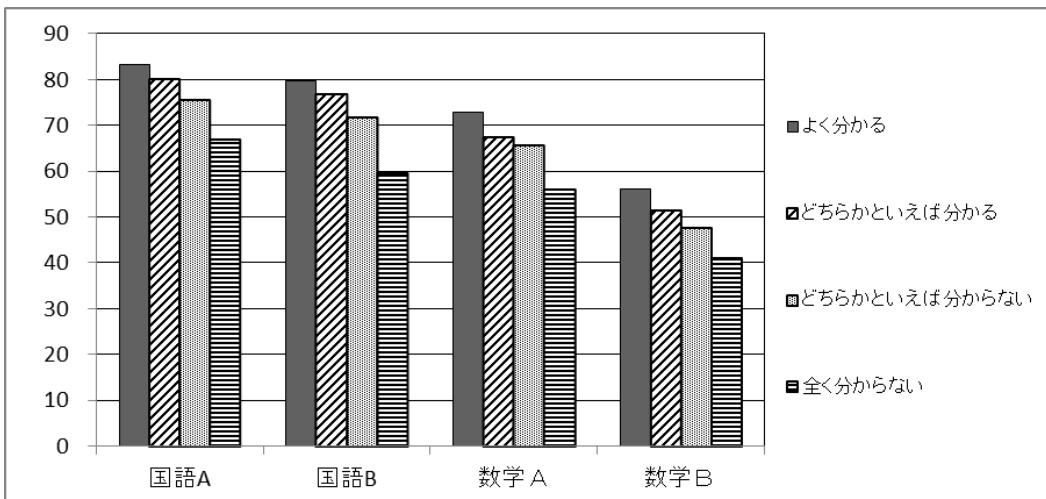


(2) 中学校

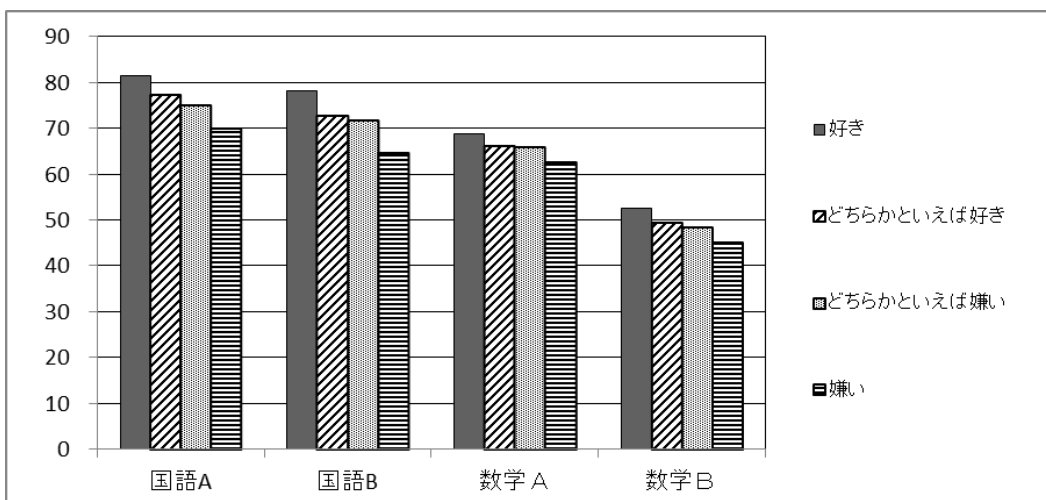
①家で、学校の宿題をしていますか。



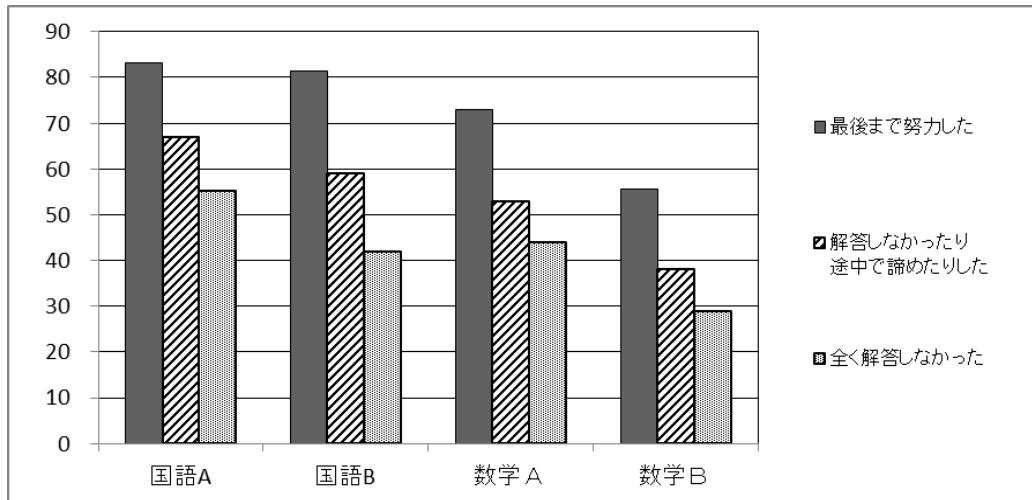
②国語の授業の内容はよく分かりますか。



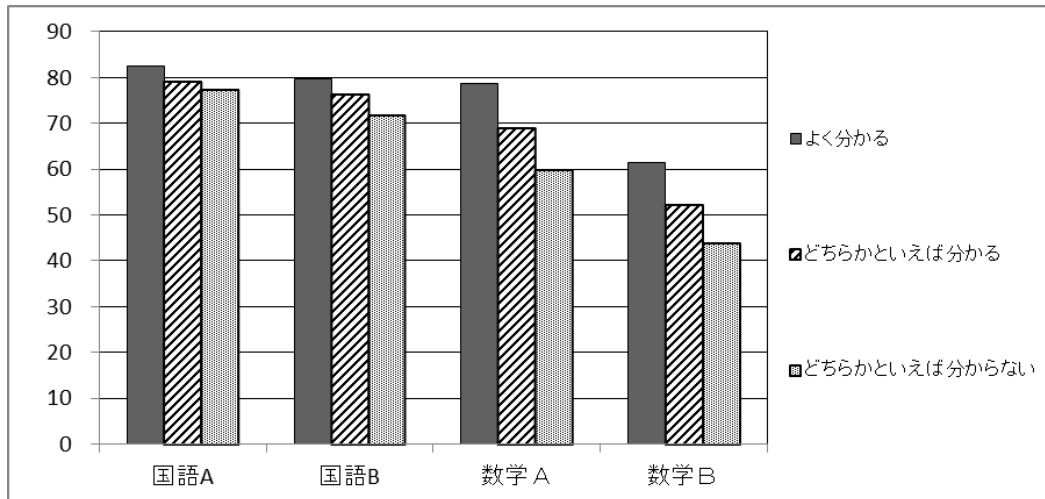
③読書は好きですか。



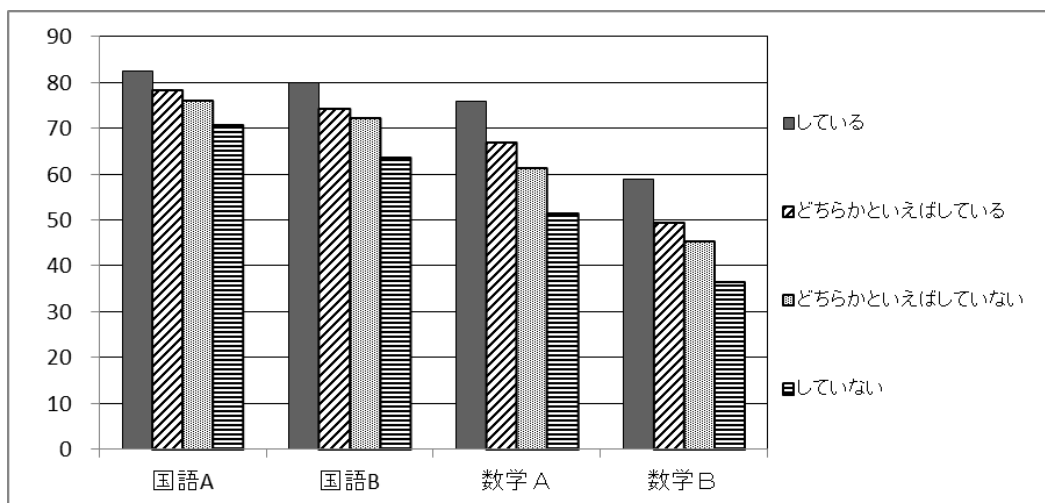
④ 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題に、どのように解答しましたか。



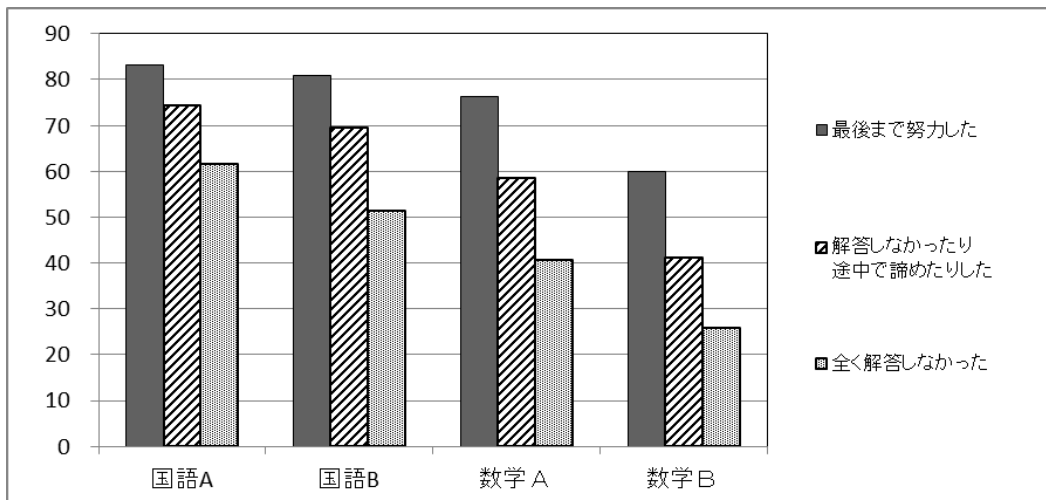
⑤ 数学の授業の内容はよく分かりますか。



⑥ 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか。



⑦今回の数学の問題について、言葉や数、式を使って説明する問題は、最後まで解答しようとしたか。



9 調査結果についての考察

(1)教科に関する調査から

- ①国語では、「知識(A問題)」「活用(B問題)」のどちらも、小学校、中学校ともに全国平均正答率を上回っています。小学校では、話すこと・聞くことの相対値について、全国との差が年々小さくなっています。中学校では、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(A問題)の正答率が全国平均正答率をわずかに下回りました。今回、出題された一部の漢字の読み書きの正答率が低かったことや行書と楷書の特徴の理解不足などが大きな要因となっていると考えられます。なお、小学校で低下傾向にある話すこと・聞くことについて、中学校では改善が見られます。
- ②算数・数学では、「知識(A問題)」「活用(B問題)」のどちらも、小学校、中学校ともに全国平均正答率を上回っています。記述式問題(B問題)の正答率が高く、全国との相対値においても大きく上回っています。また、記述式問題の無回答率が全国より低い傾向も見られ、積極的に取り組む様子が伺われます。全国平均正答率と比較して「知識(A問題)」よりも「活用(B問題)」の上回りの方が大きいのは記述式問題の正答率の高さが要因であると考えられます。反面、小学校の「知識(A問題)」については、全国平均正答率とほぼ同程度であり、基礎的な知識や技能をより一層確実に身に付ける必要があります。さらに小学校においては、「知識(A問題)」と「活用(B問題)」との正答率の差、領域ごとによる正答率の差、問題形式による正答率の差が大きく、児童の学力定着の状況を見極めた上で指導方法を工夫改善することが重要です。

(2) 児童生徒質問紙調査から

- ① 小学校では、「国語の勉強が好き」「読書が好き」という肯定的な回答が全国値より高く、この傾向は昨年度と同様で、割合もほぼ同程度です。「携帯電話やスマートフォンの約束を守った使い方」の割合が全国値よりも高いことが分かりました。所有率は、習志野市67.8%、全国62.0%でした。算数Bについて「調査問題の解答時間は十分」と回答した児童の割合が全国値よりも高いのですが、「算数の勉強が好き」や「算数の授業の内容はよく分かる」の割合が低いことが分かりました。なお、算数Aについて「調査問題の解答時間は十分」とした児童は、習志野市87.0%、全国87.1%でした。「今住んでいる地域の行事への参加」についての肯定的な回答が全国値よりも10ポイント程度低いのは例年と同様の傾向です。道徳教育を基盤として、地域の行事に参加する意欲を育成する必要があると考えられます。「先生が分かるまで教えてくれる」や「算数の勉強が好き」「算数の授業の内容はよく分かる」についての肯定的な回答も全国値を下回っているため、より高い値を目指す必要があります。
- ② 中学校では、小学校と同様に「携帯電話やスマートフォンの約束を守った使い方」の割合が全国値よりも高いことが分かりました。所有率は、習志野市87.4%、全国80.0%でした。「今住んでいる地域の行事への参加」についての肯定的な回答が全国値よりも10ポイント程度低いのは小学校と同じであるとともに、例年と同様の傾向でもあります。「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」という生徒の割合も低いことが分かりました。「課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会」についての肯定的回答の割合が低いこととの相関関係が伺われます。「先生が分かるまで教えてくれる」についての肯定的な回答が小学校と同様に全国値を下回っているため、より高い値を目指す必要があります。全国値と比べると、次期学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びに関わる学習経験についての自覚が生徒には少ないようです。

10 調査結果の今後の活用

- (1) 学校は、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等を図るために指導方法の工夫改善に向けて取り組む。多面的な分析を行い、成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら教育の改善に取り組む。
- (2) 教育委員会は、学校における取組等に対して必要な支援等を行う。
 - ・習志野市学力向上推進委員会を設置し、結果分析を行い、本市児童生徒の学力の傾向や変容を把握し、指導の成果や課題を明らかにする。その上で、市立各小・中学校の学力向上に係る分析や授業改善の取り組みを支援する事業を行う。
 - ・学力向上に係る分析や授業改善の取り組みを支援する事業について教育委員会会議、校長会議等において報告する。
 - ・学力向上に係る分析や授業改善の取り組みを支援する事業について教務主任研修、研究主任研修等において、必要に応じて周知する。